vol.25

市長から市民のみなさんへ

山陽小野田市長
白井 功

市民ふるさと塾

本市のふるさとづくり協議会の中でも，観光分野の実戦部隊ともいうべき「市民ふるさと塾」が，合併後の10年間の実践の成果をまとめた冊子を届けてくれました。市内の12の小学校区を，本山と赤崎は「竜王山」，須恵と小野田は「きてみーや」，高泊と厚陽は「かぶと蟹」，高千帆と有帆は「有高」，津布田と埴生は「干潟の会」，厚狭と出合は「わらじ会」と，6つのグループに分け，それぞれのグループが校区を中心に，年に1回程度，予め実施日を決めて参加者を公募し，歴史，伝説，大自然の景観等の「まちあるき」を企画しています。季節はまちまち（年に2回計画しているグループもあり），募集人数はおおむね20名，健脚向きのコースを用意したグループも。

「市民ふるさと塾」は，市民を含む多くの方に，「まちあるき」を通して，山陽小野田市の魅力を一人でも多くの方に知ってもらいたい。そして，「まちあるき」を楽しみながら交流を深め，この地を愛する市民や，この地に住みたくなる人を増やすことにつなげていければと念じつつ，活動に取り組んでいるそうです。

ちなみに，「まちあるきマップ」は7種類あって，各公民館にあります。

みなさん，今年はどこかの「まちあるき」に一度挑戦してみたいですね。

新規採用の職員

4月1日，退職した職員16名の後任に，新人16名の正職員が入所しました。今年は，16名中12名が女性です。欠員補充の意味もあって，保健師，保育士，管理栄養士等の専門職の採用を優先した影響もありますが，私が11年前，市役所に通うようになったころから，女子職員の能力は男子職員と比較し何ら遜色のないことを痛感していただけに，やっぱりその日が近づいてきていることを実感させられたところです。しばらく女性職員の採用がなかった時期があったとかで，現在16名のトップ職員（部長等）には，年齢の影響もあり，女子職員は皆無です。遠くない時期に「幹部の半分は女性」の実現する日が待ち遠しいです。

もう1学期です

昔から，1月は「行く」，2月は「逃げる」，3月は「去る」と言われています。この3か月の時の経つのが余りに早いことのたとえのようです。4月に入り，市役所も本格的な市民サービスが再開されました。

「給料は市民の税金から頂いている。」

この感謝の気持ちを職員全員が忘れず，みんな精一杯がんばります。